

日交研シリーズ A-723
平成 29 年度自主研究プロジェクト
「自動車の保有と利用に関わる多時点統計分析」
刊行：2018 年 7 月

自動車の保有と利用に関わる世帯単位の 4 時点分析

Multiperiod Analyses on Car Ownership and Usage based on Household Unit

主査：兵藤 哲朗（東京海洋大学教授）
Tetsuro HYODO

要 旨

少子高齢化が進展するわが国では、自動車の保有や利用状況にも大きな変化が起きつつある。今後の道路行政にとって、自動車利用の実態を正確に把握することには大きな意義がある。そのため、国土交通省は、概ね 5 年に 1 度、道路交通センサス調査を実施しており、貴重なデータを取得することで、道路行政や需要予測にも寄与してきた。その調査を世帯単位の再集計し、自動車利用の実態を、世帯属性・保有属性・地域属性の 3 属性で把握する試みを、本研究グループは、日交研シリーズ A-635 で試みている。その時は、1999 年、2005 年、2010 年の道路交通センサスデータを用いていたが、今回、2015 年調査結果も加わり、合計 17 年間・4 時点の比較分析を行うことができた。

具体的には、上記の 3 属性について、トリップ数・走行距離・トリップ長の 3 利用特性との関係を多面的な分析で明らかにした。分析の単位は、世帯単位に加えて、地方自治体単位に集計した、自治体単位分析も試みている。結果から、例えば、①トリップ数は増加、トリップ長は短距離化している、②過疎が進む地方部で、自動車利用量が減少する傾向が見受けられる、③自治体単位の分析で、かつパネルデータに限定しても、600 弱の十分なサンプル数に基づいた分析が可能である。などの知見を得ることができた。

キーワード：車の保有と利用、多時点分析、道路交通センサス

Keywords : Car Ownership & Usage, Multiperiod Analysis, Road Traffic Census Survey